

「市長と語ろう！」 in 幸福社会館 【 概 要 】

平成28年1月16日(土)

13時30分～15時

幸福社会館集会室

1 開会の挨拶

(市長)

こんにちは。立川というのは、例えば日本を代表するような製造工場は一つもありません。東証1部の上場企業も2社しかありません。多くは中小企業という構成になっています。そういう中で、立川市は法人市民税が突出して多い市です。大企業がないのになぜかという、多くの小売り企業が立川に集中しています。それによって、多摩地域の中では、市民一人当たりの法人税が圧倒的に多いです。しかし法人税というどうしても景気に左右されますので、油断はできないということでございます。リスク管理もきちんとやっていかなければいけないと思っているところでございます。

目指す立川の将来像というのが、「にぎわいとやすらぎの交流都市 立川」。「にぎわい」というのは、皆さんご存じのとおり、立川は多摩でナンバー1と言われるほど、大勢の人でにぎわっています。働く人、お買い物、昭和記念公園の観光などいろいろ含めて、1日40万人以上の人滞りしているだろうというビッグデータがございまして。このような人たちが、立川に1時間でも長く滞在していただいて、たとえコーヒー1杯でも余分に飲んでいただく、お菓子1つも余計に買っていただく、こういうことをすることで、今後、立川の発展になります。税収を確保することは、こういう努力をしていくことによって可能になっていこうと感じているところでございます。それが「にぎわい」です。

そしてもう一つが「やすらぎ」です。この幸福社会館の周囲を見ても、大変緑が多くなっています。ほとんどが作物として、植木をつくり、そしてそれを出荷していただいている農家の畑であります。これが、いわゆる住まいの周辺の環境の潤いになっています。

こういう中で、日本中から大勢の方々に交流して立川に集まっていただくことが、「交流都市」を標榜しているわけでありまして。昨年より立川市在住のジャズピアニストである山下洋輔さんにたちかわ交流大使に就任していただいて、あちこちで立川の売り込みをやっていただいております。

「にぎわいとやすらぎの交流都市 立川」に向けて、今後もまちの主役である市民の皆さんとともに、前に歩んでまいりたいと考えております。繁栄すればするほど、一番懸念するのは、負の側面であります。にぎわいがあればあるほど、いろいろな犯罪等の暗い部分が出てくるわけでありまして。この部分につきましては、自治会をはじめとする市民の皆さん、あるいは商店街の方々とともに、パトロール活動やまちの美化運動を展開することで、安全の確保、安心の確保を図ってまいりたいと考えているところでございます。

どうぞよろしく願いいたします。

2 意見交換

(参加者)

たき火禁止令というのが出ました。たき火をしてはいけないということになったので、負担が増えた方が多いということです。

私の主人のうちは五日市街道沿いにございました。最近、伺ったことなんですけれども、今までは枝を刈ったり、草を抜いたら、それをその場で燃やせばよかった。だけれども、袋に詰めてごみとして出さなくてはならないということは、あらかじめ袋を購入するわけです。量がとても多いです。何代にもわたって、砂川村から住まい続けている方たちなので、それを一律に、ほんとうにお庭が狭い方たちと一律に扱われるということに対してとても負担に感じていらっしゃるの、ごもっともだと思いました。

何らかのご配慮をいただけないかと思うのです。きちんと固定資産税を納めていらっしゃる方たちだと思います。五日市街道沿いの地区が、きちんと手入れされて美しい状態であるということは、とても大切なことだと思います。

私も庭の手入れはしますけれども、一応袋は買ってあります。どのようなご配慮をいただけるのかわからないけれども、例えば100坪以上のお庭を持っていらっしゃるとか、50坪以上のお庭を持っていらっしゃるとか、そういった線引きも必要なのかと思います。市役所の皆様でご検討いただいて、何らかのご配慮をいただきたいと思います。

(市長)

たき火禁止というのは、CO₂の削減が大きな目的です。それと、もう一つは、近隣に迷惑がかかります。そういうことでたき火は遠慮していただくということでございます。庭木を剪定した枝につきましては、ひもでくくっていただいて、月に2回程度、無料で回収しております。改修した枝をリサイクルセンターへ持っていきまして、それを砕いて堆肥にして、市民の皆さんに無料でお分けしております。そのほか、雑草については、有料の指定ごみ袋ではなく、普通の袋に入れていただいて、「燃やせるごみ」の日に出していただければ、それも回収するということです。

ぜひそちらをご利用いただきたいと思います。

(参加者)

私のうちの庭は大体50坪ぐらいしかありませんが、他の方は50～60坪広いです。だから、かなり負担になる。指定の袋じゃなくて普通のごみ袋にするとしても、買わなきゃならないわけです。

もともと長く住んでいて、ある程度広い地所を持っている方は、一律に扱ってほしくないという思いがあります。

その方は「年金だって少ないのに、袋をたくさん買わなきゃ。袋だってただじゃないのよ。」とおっしゃっています。ご無理ないかなとも思います。何らかのご配慮をお願いします。

(市長)

実は私も、昔の農家の生まれですが、そこから出る枝などのごみは、やはりその様に処分させていただいています。また、大きな木の場合には、植木屋さんでないとできないので、植木屋さんが枝打ちをして、そして植木屋さんがリサイクルセンターへ運び込んでいます。

市で税金から負担して、ごみ袋を無料で配布というのなかなか難しい課題ですが、うまくやっている事例がございましたら、研究してみたいと思います。

(参加者)

昨年、若葉小学校とけやき台小学校の統合が決定しましたと広報などでお知らせがありました。私は、若葉小学校に長女が通っていますが、これから下の子も含めて12年間、若葉小学校に通うこととなります。2年半前に家を新しく買ったときに、通学路の安全を第一に考えて今の家を選びました。若葉小学校が統合されてしまいますと、けやき台小学校に新しい学校がつくられるということなので、通学路も遠くなりますし、五日市街道を横断して行かなければならず大変危険だと思います。

最初に、統合の請願が出されたときに、若葉小学校のPTA会長さん、副会長さんが請願者の中に入っていたのですが、PTAのほうに一度も相談もなく請願に名前を連ねてしまったということで、おかしいのではないかと保護者の間でも話題になっています。ぜひとも白紙に戻して、もう一度話し合いから始めていただきたいと思っています。

(市長)

まず通学路の安全ですけれども、例えば第七小学校などは、立川通りを横断して七小に行っています。立川の学校のほとんどは同じような状況があります。例えば西砂小もそうですし、九小もそうです。通学路の安全というのは、例えばシルバー人材センターさんにお問い合わせするなどいろいろな形で確保しております。

(参加者)

ほかの学校についても職員の方からの説明があったのですが、5年後には若葉小の児童の数がかなり増加する予定です。300人が横断して、また下校後は、ほかのお子さんと遊びに行くなど、再度渡る可能性も増えます。ほかの学校とは同じくくりにはできないのではないかと考えています。

(市長)

数の問題でしたら、例えば九小は半分くらいの児童が、五日市街道の北側から南側に横断しています。それから、立川通りは交通の頻繁さでは、五日市街道の比ではないのですが、安全を確保しながら通学路を設定しております。将来的にそれほどご心配いただかなくても、子どもたちの安全は確保できます。

例えば、四六時中300人が横断するという事ではないと思います。朝でしたら登校時の1時間以内、それから午後でしたら、学年によって違いますけれども下校時間であり、一日を通してずっと続くことはないのではないのでしょうか。

もう一つの請願書に知らないうちに名前を出されたというお話です。その件に関しましては、請願をされた方々の中での扱いにさせていただきますと、私どもでは何とも言いがたいということがございます。ぜひご理解をお願いいたします。

(参加者)

ほとんどの保護者が、まだ合意していないという状況です。また、その請願も本当に意

味があるのかという意見もたくさんあります。このまま統合計画を進めるのではなく、みんなが合意して納得したうえで進めていただきたいと思います。

(市長)

とても大事なことだと思っています。できる限り話し合い、ご説明する中で対応してまいりたいと考えています。

(参加者)

今の若葉小学校の統廃合問題についてお話をしたいと思います。

若葉町に住んで40年ぐらいになります。私の家は若葉小のすぐそばですが、環境がよくて大変住みよいところです。子育てにもいいし、それから、シルバーになってからシルバー大学など他市に比べて、立川は目配りしてくださっているなど感じています。

ですが、今回のことは一体何なのだろうと思います。せっかく立川に住んで、「ああ、よかったな、これから一生住めるな。」と思っていたのに、市議会、それから市長さんに対して、また、若葉町の住民のいろいろなことに関しても、不信、疑問が出てしまって、ものすごく残念です。

若葉小はかつて統廃合問題があって、そのときは保護者の方たちが一生懸命考えられ、市と何年かにわたってよく話し合い、結論を出されたと思います。ですが、今度のことは、相当数が納得していないです。このまま突き進んだら、若葉町というのは、お互いに不信感を持ち合う地区になってしまうと思っています。

先ほどの通学路の問題に関しても、昨年、けやき台小の3年生ぐらいの児童が先生に引率されて、1クラス、若葉小のほうに向かうということがありました。私はちょうどケヤキモールのある交差点で見ていて、怖かったです。30人か40人ぐらいだと思いますけれども、大変怖かったです。

朝の時間が限られているといっても、登校・下校のときにやはり相当数のお子さんが渡るわけです。この間の説明会でも、その対策はシルバーの方や、保護者の方にお問い合わせするとの説明がありましたが、冗談じゃないと思いました。私もシルバー世代ですから、お手伝いしてもいいわけですが、こんな状態で、市は何をしてくれるのでしょうか。市の対策は何なのでしょう。シルバーや保護者にお問い合わせすれば良いのかと思っています。

他地区の小学校ではとおっしゃいましたが、最初から南北とか、東西とか道路を渡る設定になっているところは、習慣ができているのですが、ここで新しく若葉小をつくれと言っているんじゃないのです。既に若葉小はあるわけです。とても安全なところなんです。それをわざわざなくして、不安のある通学路にする。あるものをなくしてしまうということのマイナスというのはあると思うのです。

実際に教育委員会の職員がそこに立たれて、考えてみてくださったのかなと思っています。それから、おそらく通学路になるところには、ケヤキモールや、ヤオコーがありますので、下校時に児童がばらばらになると危険が伴います。友達同士の交流でも、すごく危険が伴うと思います。

子どもたちが今の状況で、とつても一生懸命、楽しく過ごしているのに、そういうところをあえてなくしてしまうのはなぜだろうと思いました。

説明会のときに、統廃合が問題なのではなく、適正規模がというお話がありましたが、

適正規模という人数とか、学級数の問題ではないでしょうかと思っています。若葉小学校区の若い方たちは、大方の方ががっかりきて、こんなはずじゃなかった、ここで子育てしようと思ったのに何てことだと感じていると思うのです。

教育的なことに関しては、市長さんだけでなく、市議会の議員の皆さん方にぜひ実際に子どもの姿を見てとお願いしたいなと思います。

子どもって突発的な行動がありますよね。シルバー人材センターの方がどの程度お給料をいただいて、どの程度のことでなさっているか知りませんが。

(市長)

ボランティアでやってくれています。

(参加者)

ほんとうに危険を伴うようなところで、ボランティアでやって、万が一事故が起きたらどうするのということです。そういう危険性を見てくださいましたかということなんです。ほんとうに、ボランティアというのは高齢者が勝手に見守るとか、そういう意味ではなく、シルバー人材センターの方ということはわかっております。ですけれども、今の納得のさせ方にしても、とっても強引な進め方だと思います。

保護者の方たちにも説明会があるようですけれども、ぜひ地元の自治会にも、市長さん自らいらして説明会をしていただきたい。いろいろな不信が出ています。いろいろな疑問が出ています。それを納得させていただきたいと思います。

(市長)

まず大きな柱を申し上げます。教育に関しましては、市長の立場で、いわゆる政治的な方向が入るといけないので、教育の内容については教育委員会にお任せしてきました。

これからも、私は教育に関しては、中立性が保てるような形で、教育委員会の合議制に任せていきたいと考えています。それから、これは地域の方々からの請願をいただいたものが、議会にて採択されました。それに基づいての、市としての動きでございます。ぜひご理解をいただきたいと思います。

(参加者)

普段はそれほど、学校問題には関わらないのですが、若葉町のけやき台小学校・若葉小学校統合問題で、大変問題意識を持っております。ちょうど1年近くになるのですが、この間、いろいろ情報収集や地域の方、それから教育委員会の方との話し合いを進めてまいりました。今日はどうしても聞きたいことが一つあります。

この1年間の中で、若葉小学校、けやき台小学校、あるいは第九中学校のPTAの総会で、この統合問題は一度も論議されていないです。それから、保護者会でも論議されていないです。そういう形で現在までできております。これは大変異常なことと言わないといけないと思います。

なぜかということなのですが、ここに資料を持ってまいりました。平成26年9月18日、教育委員会の資料です。ここで、けやき台小学校の大規模改修工事についてという報告がされました。一昨年前の8月段階で、若葉町の一任意団体と私たちは見ている、若葉町地

区学校保全計画検討委員会という名前で報告書が出されています。

この中で、学校保全計画検討委員会は、若葉小学校、けやき台小学校の問題を住民と話し合うことになったので、けやき台小学校の大規模改修工事の予算を停止してほしいという報告書が出されたのを受けて、9月18日の教育委員会で予算措置を停止するという決定が報告されております。私は教育委員会の方にこのことについて質問したのですが、これは市長サイドで決定したことだから、教育委員会はわかりませんということをお話されました。この点での事実関係、事実経過というのは、どうなっていたのでしょうか。

(市長)

申しわけありません。詳細に思い出すことは今できませんので、必要でしたら後ほど、お答えさせていただきます。

(参加者)

五日市街道の問題です。砂川九番から小平までは歩道に植木が植わっています。若葉町地域の障害者の方から、車椅子で通るのに大変不便をしているので植木を取ってもらいたいという要請がありました。そこで実際に私たちも現場を車椅子で通って自転車との交差などを見た結果をもって、東京都の北多摩北部建設事務所とも交渉しました。ところが、あれはいろいろな判断があつて、植木は撤去できませんということで、依然としてそのままになっています。植木の幅が1メートル近くあるので、自転車や歩行者との交差、車椅子の交差、大変不便になっています。

五日市街道も大変危険であるうえに、歩道も整備が遅れている。ここに学校の通学路問題が重なってきているわけで、やはり現在ある2つの小学校を潰して、あえて子どもたちの通学をああい危険な仕儀にさらすことはやめるべきだと思います。

それともう一つです。市の報告でも、子どもたちが減るといふ報告が出ていますが、若葉町3、4丁目に関しては、子どもが増えていきます。傾向的にそういう資料を使う場合も、機械的に当てはめても、当てはまらない部分はあるわけで、そういう面では、今ある小学校をきちっと維持管理していくことが大事だと思っています。

(参加者)

若葉小学校のすぐそば、もう目の前に家があります。まず、その環境がとても気に入っています。子どもたちもすごくフレンドリーで、いい環境と思っていますが、統合が一部の人たちの請願によってどんどん押し進められていくことに対して、本当に不信感でいっぱいです。

そういう気持ちをはたして市長さんに通じているのかどうか、疑問に思うのです。先ほど、教育委員会の中立性ということで、あまり強くは言えないとおっしゃりましたが、結局、市長さんの権限というのは最大のものです。反対のほうがもう圧倒的に多いのに、少数派の人たちの意見で決まってしまうということも、とっても不可思議なことです。もしかして学校を統合させて、あとの土地を有効活用して立川市を繁栄させていくという思いがおありなのかなというような気持ちもあるので、率直に、本当のところを教えてください。

そういう疑念が出てくるような強引さでしたので、どうしてこんなに無理やり、みんな

の意見を聞かずに進めてしまうのかなという不信感がものすごくあるのです。正直なところをお聞きしたいのですが、何か裏があるのではないかと思うのです。

(市長)

先ほども申しましたが、地域の方からの請願を受けて、議会が決定しました。それを受けて教育委員会が動き出したということです。

(参加者)

その請願に賛成なのは、一部の人たちだけで、後でみんなの意見をちゃんと聞いてみたら、圧倒的多数の人は反対しているのです。

(市長)

そのことに関しては、私どもではあれこれ言える立場ではありません。請願を出した、あるいは、その名前を連ねた人たちの中での問題であります。市長としてその請願について云々ということは控えさせていただきます。

(参加者)

納得できないです。

(市長)

請願を出された内容などについて、私が何かコメントしたということになれば、これは大変な問題です。

(総合政策部長)

これは議会に提出していただいた請願です。議会では正式な請願として受けとめられたことに対して、私たちは何も言う権限がありません。議会には反対、賛成、両方の請願が提出されましたが、そこで統合をするという賛成の請願のほうが採択されたということです。それに基づき市として動いているということでございます。その請願については、先ほど来、市長が申しますように、私ども市の職員としては申し上げるべきものではございませんので、ぜひご理解いただきたいと思っております。

(参加者)

図書館をすごく楽しみにして立川に引っ越してきました、一番近い図書館と紹介されたのが幸図書館でした。先ほど市長もおっしゃったように、砂川の人口が増えたということです。できましたらもう少し広くするか、工夫して本をいろいろな種類にしてほしいと思っています。

おそらく本の数を増やすためだと思いますが、棚がもう林立してしまっていて、すれ違いもできないですし、おそらくベビーカーのお母さんですとか車椅子の方というのは、入口から入ることもできないと思います。休日など、返却ポストにいれるのも、鎖がしてあるのをくぐって入っているような形です。もう少し入りやすい、借りやすい、選びやすい図書館をお願いいたします。

(企画政策課長)

去年まで図書館長をしておりました。幸図書館が一番狭いということですが、実は利用率は非常に高いです。幸図書館と錦図書館の2館が先行して会館時間を午後8時まで延長しましたが、モノレールの駅の近くでしたので、幸図書館が圧倒的な利用率を誇っております。書架やスペースも非常に狭く、今、お話があったとおり、入口もどこから入ればいいのかわからないような状況もありまして、大家さんにも協力していただき、少しずつ改善を図ったところですが、それでもやっぱりわかりづらい、あるいは狭いということがあります。有識者や図書館の業務を経験されている人などが集まった、図書館協議会という会を定期的にかけています。そこでも、そういった議論を続けております。また今日いただいた意見も図書館に私から伝えていきます。

図書館を広げるといのが幸図書館も含めて難しいのであるならば、例えば他の公共施設で注文した本の受け渡しができないかですとか、いろいろな方策も考えていきたいと思っておりますので、現行の図書館長にも伝えてまいりたいと思います。

(参加者)

若葉小学校とけやき台小学校の統合問題に関連する話です。東京都の教育、あるいは文科省の統合のマニュアルには、統合には住民の合意が必要だということが書いてあったと思います。仮に今回、若葉小の保全計画委員会からの請願署名がなかった場合は、市としては、学校の保全に関する計画にのっとって進められたのでしょうか。

(市長)

おっしゃるとおりです。

(参加者)

そうすると、あくまでもそういう市民からの要望だという理解で、大規模改修をやめて建て替えにしたということですね。

(市長)

先ほどから申しておりますが、議会へ地域の方から請願がありまして、その請願の採択を受けて教育委員会が動き始めたということです。

(参加者)

住民への説明会は4回ありましたが、かなり反対意見が多かったです。そうすると、ほんとうに住民の合意が得られたと、市として、市長さんとしては判断したわけですか。

(市長)

説明会での結果については、まだ私は受け取っておりません。

(参加者)

もう1点、五日市街道は非常に交通量が激しいし、特に北側の歩道が狭いです。市長さ

んもご存じかと思いますが、若葉小学校の6年生の児童が、全校児童に「若葉町で危険な場所はどこですか。」と聞いたら、「五日市街道の北側の歩道だ。」という答えが圧倒的に多かったのです。

そういうことで、五日市街道の北側の歩道をもっと広げてもらいたいという要望があると思います。五日市街道は都道なので、市としては難しいということは前にもお答えいただいておりますが、何とか都とも折衝しながら少しでもよくして、安全に通れるようなことをぜひ検討していただきたいと思います。

(市長)

五日市街道は、西砂から砂川十番までほとんどが、若葉町と同じような形態です。西砂にはまだ歩道さえないところもあります。そのような状況ですので、これは引き続き、毎年毎年、東京都の北多摩北部建設事務所をお願いをしております。

(参加者)

もう1点、新しく住宅地が建設された場合の道路が、いわゆる袋小路で終わっています。そのために、例えば若葉町団地のほうから若葉会館へ行こうとしても、前は通れたのですが、その後、両側から住宅地になったんです。本来、今まで通れた道が通れなくなってしまった。それは地主との関係があると思うんですけども、どんどん市で認めてきてしまったために、道路の本来の機能が失われてきているのではないのでしょうか。

災害時や日常の生活でも、道路が貫通していれば、それは近道で行けるわけですが、今ですと例えば若葉会館に行こうと思うと、九中のほうを回るか、あるいは若葉の東大通りを回らないと行けないです。結局、五日市街道の歩道をずっと通っていかないと若葉会館までは行くことができない。そういう危険を伴う不便さがあります。若葉町団地からストレートに若葉会館に出るような道路をぜひ、地元の地主の方とも折衝しながらつくっていただければ、特に若葉町の北側の住民は便利になるし、危険を伴う五日市街道の歩道を通らないで済むというメリットがあります。

(市長)

第1は、やはり私権です。私の権利で土地をお持ちの方のご理解をいただけるかどうか。2番目には、若葉町だけではなくて立川全域にそのような道路がありますので、それだけの財源がひねり出せるかどうかということでもあります。現状では難しいお話です。

(参加者)

私はシルバー人材センターで、20年間以上勤めております。夏休み、冬休み以外は学校の下校時間の誘導、見守り活動をしています。

市長さんをお願いなのですが、いつも30人ほどが玉川上水で散歩をしています。10時ごろになると必ず、玉川上水の南口に集まってみんな同じお年寄りばかりですが、立川市のことなど、いろいろな話をしています。

私は競輪場に勤めていたのですが、競輪場の東側はもう壊し終えましたか。もし壊すのでしたら、長椅子があるので、それを玉川上水駅南口エスカレーターのひさしが出ている下に並べて置いてもらえれば、私らお年寄りが座るのにいいのではないかと思います。

新しいイスはもったいないので、その椅子をいただきたいのですが、いかがでしょう。

(市長)

競輪場のベンチを持っていくかどうかは別としまして、玉川上水駅がベンチを置かせてくれるかどうか、まず当たってみます。

(参加者)

将来的に、これからの文化都市として、美術館などがあつたらうれしいなと思います。これはお願いで、今日に明日にできることではないと思っていますけれども、大きなまちづくりの中で考えていただければありがたいなと思います。

小学校統廃合の問題ですけれども、実は、この計画が始まったのは、若葉町の保全委員会の方が市長さんに、「けやき台小の改修をちょっと待ってくれ。」というところから始まっています。

教育委員会とか議会とかではないのです。市長さんへの報告書となっています。それで、市長さんのほうからOKを出されています。その報告書の中に、「今後、住民に説明会をしていくので、けやき台小の大規模改修を一旦中止してくれ。」と簡単な文と、ずらっと地域の長という方たちの名前があります。

そもそものきっかけは、そこにあるということです。その何とか委員会という方たちが住民説明会を丁寧にやりますからということで、市長さんはゴーサインを出したと思うのですが、実はその方たちの住民説明会というのは、ほとんど知らされることはなかったです。2回ぐらいやられたみたいですが、知らなかったです。気が付いた方が、もう1回やってほしい、もっとやってほしいと言ったけれども、拒否されて、署名活動になり、請願になってしまっています。

市長さんとしては中立の立場で、あまりこの問題はというふうに考えていると思うのですが、本当にもう1回、見直してもらいたい。

今後どのような方法だったら若葉町の住民たちが納得するのか、それを市の責任としてやってもらえたらありがたいです。将来的には、若葉町のまちづくりの青写真を出していただけるとありがたいと思います。

(市長)

今日は大勢の方が統合反対のお話をされて、その中で、そもそもあのときはこうだったという話を聞きました。統合を進めたいという人たちからは、細かい話は一度も聞いておりません。いわゆる流れというものを一度も聞いたことがないです。出された請願だけです。一度、第一小学校のようなものができたらいいなという立ち話があった程度です。それ以外には、詳しい話は全く聞いておりません。

実はこうだったという裏話のようなお話も、今日は、ほとんど反対の人たちから聞いているわけですので、教育委員会などに、統合を進める人たちはどのような考えを持っているのかという話も一度聞いてみたいと思います。そうでないと、私はますますコメントしづらくなってまいりますので、厳しいなと思っています。

それから、美術館、私も実は欲しいなと思います。ただ、やはり、雲を食ったのでは生きていけないです。

ついこの間、善光寺のお隣に東山魁夷美術館ができました。東山魁夷さんが長野が好きで、亡くなる直前に500数点の絵画を寄附したそうです。それならばということで、東山魁夷美術館ができました。建物を建てるのでしたら、おそらく20億円程度で建ちます。ただし中身は買えません。1点か2点しか買えないです。それでは美術館をつくるわけにはいきません。美術館をつくるためにはそういう大きな壁が立ちはだかっています。

立川駅北口のモノレールの隣に、3.9ヘクタールの土地があります。去年2月に国有地を株式会社立飛ホールディングスが買いました。そのうちの1ヘクタールは、多摩オンリーワンの施設でないとだめですと地区計画で決めてあります。事務所が入るビルは当然、多摩オンリーワンではありません。しからば何だということになりますと、いろいろあります。例えば美術館でもいいでしょうし、あるいは、超特級のホテルでもいいでしょうし、水族館や動物園など、文化性の高いものをつくることになります。私も期待しています。

3 閉会の挨拶

(市長)

ご協力をいただきまして、大変ありがとうございました。

若葉小のことについては、私も初めて市民の皆さんと直接お話をさせていただきました。いろいろ課題があることは承知しております。しかし、私としては、市民の意見を最大限にという思いと、なおかつ中立性というのは絶対に教育の中でも守っていかねばいけないことだと固く誓っております。市長になって9年になりますけれども、積極的に教育の内容について口を挟んだことはありません。教育委員会から、こうしてほしいというお話を聞く中で、選択してまいりました。

今後も基本的なスタンスは、私はそういうことでやっていきたいと思っております。折に触れてご意見を賜ればと思っております。今日は大変ありがとうございました。